



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍がガザに侵攻

7月17日午後10時半頃（日本時間18日午前4時半頃）ガザへの侵攻作戦を開始した。イスラエル軍は、ガザとイスラエルの境界地域のガザ側に掘られている地下トンネルを破壊するのが目的だとしている。イスラエルのG2テレビは、イスラエル軍筋の話として、同作戦は7日ないし14日ぐらいかかると報道した。

イスラエルのハアレッツ紙（18日）の報道では、イスラエルの治安閣議は7月15日、ハマースがエジプトの停戦案を拒否したため、ガザへの地上作戦を承認していた。ネタニヤフ首相とヤアロン国防相が、作戦の内容と開始の時期を決定することになった。イスラエル側のメディアは、17日朝、ハマースが、境界地域にある地下トンネルを使ってイスラエル側に戦闘員を送りこもうとしたことで、イスラエル政府は地上戦を決断したと報道している。

またハアレッツ紙は、17日にカイロで行われた停戦協議について、エジプト、イスラエル、パレスチナ自治政府は即時停戦を求める立場だったが、ハマースだけは違う考えで、さらなる要求を持ち出したと報道した。イスラエル代表団は、ハマースがエジプト停戦案を意図的に妨害しているとの印象を持って18日朝帰国した。代表団の報告を受けたイスラエル政府は、停戦合意への期待を失った。エジプト側は、ハマースが停戦に合意していれば地上戦突入は回避されたとハマースを非難している。

評価

イスラエル軍とガザの武装勢力間の戦闘激化に対する国際社会の懸念は、イスラエルとガザ住民への被害拡大である。イスラエル軍がガザで地上戦を開始したことで、その懸念は一段と深刻化した。無条件停戦に合意せず、イスラエル軍にガザ侵攻を決断させたハマースに対する非難が高まるだろうが、同時にイスラエル軍によるガザ住民攻撃も国際社会の厳しい監視の対象になる。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799